校 長 室 だ よ り（No.33）

令和５年３月２日
丹波市立黒井小学校長
谷口　千尋

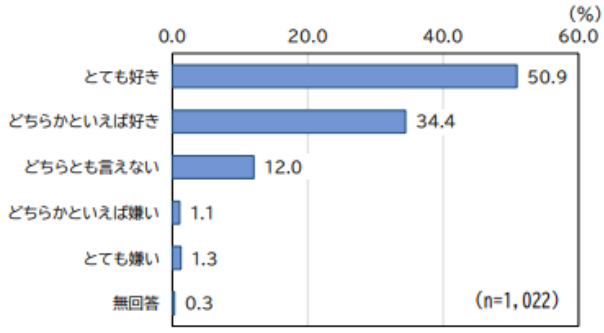
これからの丹波を担う子供たちの意識

丹波市のふるさと創造部総合政策課が、市内児童生徒を対象に「第３次丹波市総合計画策定に係るアンケート」を実施しました。各校では、５年生、６年生の児童が回答しました。調査結果については、今後の諸計画策定のための基礎資料とされるそうです。結果の一部から子どもたちの意識を見ていきたいと思います。

市内の児童 1022 人が回答しました。（黒井小学校は、60 人が回答）

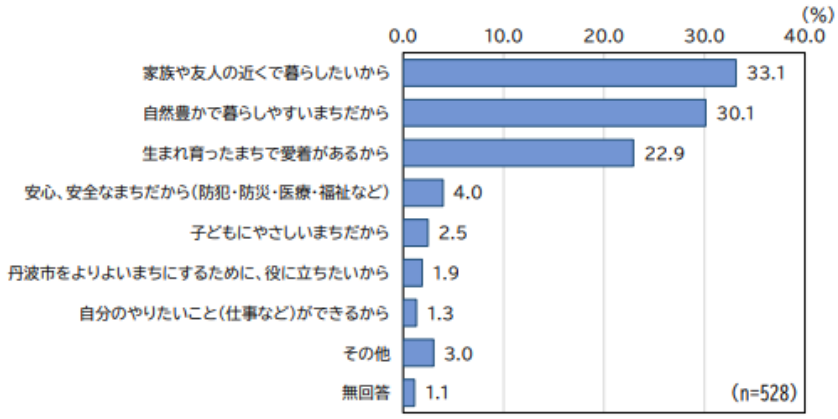
「あなたは、自分が住む地域が好きですか。」

自分の住んでいる地域のことが好きと答えた児童の割合が 85.3%、嫌いと答えた児童は 2.4%でした。住んでいる地域に愛着があり、ふるさと学習などを通して地域のよさを実感していると考えます。また、「あなたの住む地域は住みやすいですか。」の設問にも 84.7%と先の質問と同じくらいの児童が住みやすいと回答しています。



「あなたは、将来も丹波市に住み続けたいですか。」の設問には、13.9%の児童が、ずっと住み続けたいと回答し、将来住みたいも含めると 51.7%の児童が、丹波市に住みたいと考えています。

住み続けたい理由として１位は「家族や友人の近くで暮らしたいから」２位が「自然豊かで暮らしやすいまちだから」３位が「生まれ育ったまちで愛着があるから」４位が「安心、安全なまちだから」となっています。２位、４位から子どもたちは、自然豊かで安全で安心して暮らせる丹波市を望んでいることもわかります。反対に住みたくない理由として、１位「都会の雰囲気やイメージにあこがれているから」２位「買い物や交通の便など、生活が不便だから」３位「仕事・職業の種類などが少ないから」など交通の便や就職先等があげられました。人口減のなか、丹波市に残ってくれる、また、帰ってきてくれるようにするためのヒントがあるような気がします。



最後に「将来、丹波市がどんなまちになってほしいと思いますか。」の設問では、１位「豊かな森林や田園風景が守られたまち」２位「事故や犯罪が少なく安全なまち」３位「こどもが元気で、よく遊び・よく学べるまち」でした。「自然環境」「安全・安心」「教育」がキーワードでしょうか。丹波市が好きと言える子どもたちを一人でも多くつくりたいですね。